

<Summary>

- イ) 「BOP」という概念の始まりと歴史
- ロ) 「BOP」市場の内部構成
- ハ) 「BOP」層が抱える社会課題

【本レポートのねらい】

今、世界で注目される「BOP ビジネス」。2009年、日本も「BOP ビジネス元年」を迎えたと言われます。しかし依然日本では「BOP」という3文字が、つかみどころのない言葉となっています。

そこで、私達日本人にとって「BOP」とは何か？どう関わっていくのか？また、BOP ビジネスや研究分野で先行している欧米の議論をなぞっていくのか？を考察します。

この問題提起は、企業の経営戦略や今後の国の支援制度といったことまで含めた、日本の国としての長期的なビジョンを描いていくことと不可分です。

本レポートでは「BOP」についての議論を深めていくための材料を提供し、皆さんと一緒に考えていきたいと考えています。

今回はまず「BOP」という言葉の誕生と定義を確認したのち、「BOP」を一つの巨大なマーケットではなく、一コミュニティ・一個人としてイメージして頂くために、「BOP」の階層分析を行い、彼らがどんな生活課題を抱えているのかを紹介します。

【イ. BOPの歴史】

- 1998年、スチュアート・L・ハート、C・K・プラハラード両教授が「経済ピラミッドの底辺への戦略」(The Strategies for the bottom of the pyramid) という研究報告書を発表。このとき、年間所得 1500 ドル (購買力平価換算) 以下の人々が 30～40 億人いるとされた。
- 2002年、両教授は「経済ピラミッドの底辺に隠れた富」(The Fortune at the bottom of the pyramid) という論文を発表。多くの企業が BOP への興味・関心を抱く。
- 2004年、C・K・プラハラード教授がその論文と同じタイトルの書籍 (邦題は『ネクスト・マーケット』ⁱⁱ⁾) を出版。彼らがビジネスの対象になりうるということが浸透。
- 2007年、国際金融公社(IFC)と世界資源研究所 (WRDI)が「The Next 4 billion」ⁱⁱⁱ⁾ を発行。家計調査データのある世界 110 カ国を対象とし、年間所得 3000 ドル以下の人々が、総調査人口 55 億 7500 万人のうちの 72%を占め、約 40 億人いるとされる。

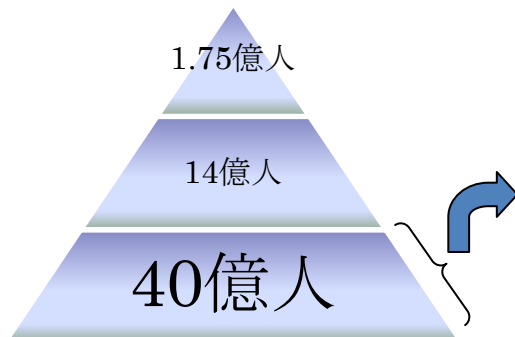
【ロ. 「BOP」をよりミクロな視点で捉える】

① <所得区分別に見た BOP 層>

「BOP」という言葉で貧困層を一括りにして論じがちですが、本当に彼らは一つのグルー

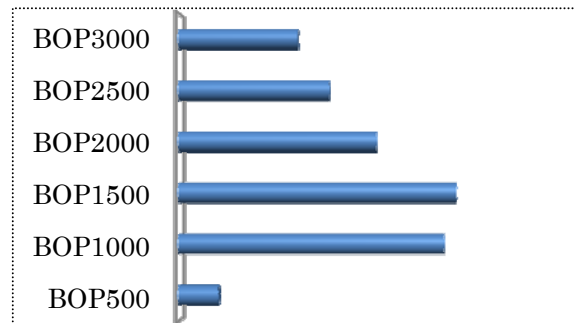
プなのでしょうか。ここからは「BOP層」を細かく見ていきます。

図1. 世界の所得別人口構成



※総調査人口 55 億 7500 万人

図2. BOP各層の市場規模



・「The Next 4 billion」では市場規模を分析するとき、BOP層を500ドルごとに6区分している。(例えば、BOP500は年間所得500ドル以下、BOP1000は500~1000ドル、BOP1500は1000~1500ドルの人々を表している。)

⇒同じ「BOP層」の中でもBOP3000とBOP500では抱えている社会課題が異なり、どの層について議論しているのかを気をつける必要がある。

② <地域別のBOP人口分布>

◆ 世界の中でも地域別に見ていくとBOP層の人口分布は異なります。

表1. 地域別BOP人口

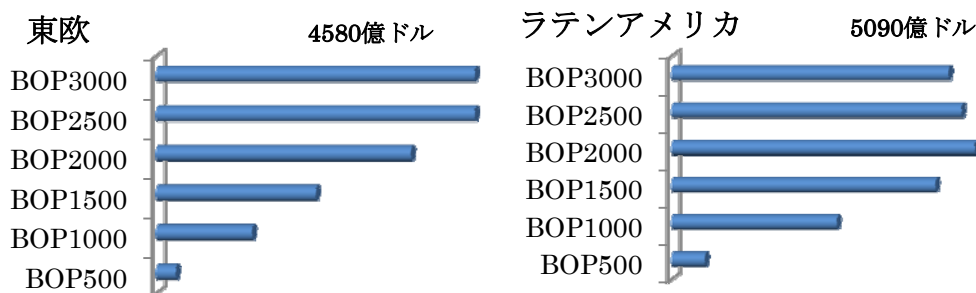
	BOP人口 (億人)	各地域全体に占める割合
アジア	28.58	83%
中南米	3.6	70%
アフリカ	4.86	95%
東欧	2.54	64%

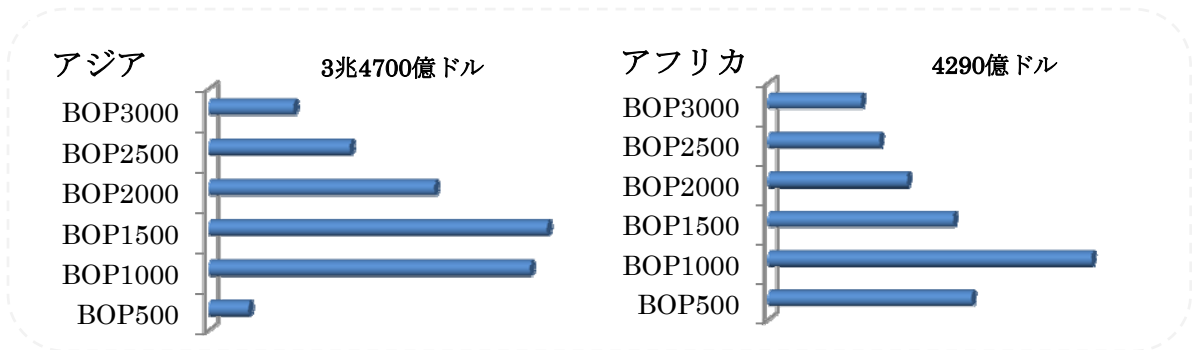
・アジア(中東含む)には多くのBOP層が居住。
 ・アフリカのBOP人口数はアジアの約1/7に過ぎないiv。しかし、各地域全体の人口数に対する割合で見ると、アフリカはトップである。
 ・東欧のBOP人口はロシア(8600万人)がその約3分の1を占める。

③ <地域別の市場規模をBOP層の所得区別にみる>

◆ ①にて世界におけるBOP市場規模を所得区別に紹介しましたが、ここでは地域別の市場規模を所得区別にみていきます。

図3. 各地域別に見る所得区別市場規模

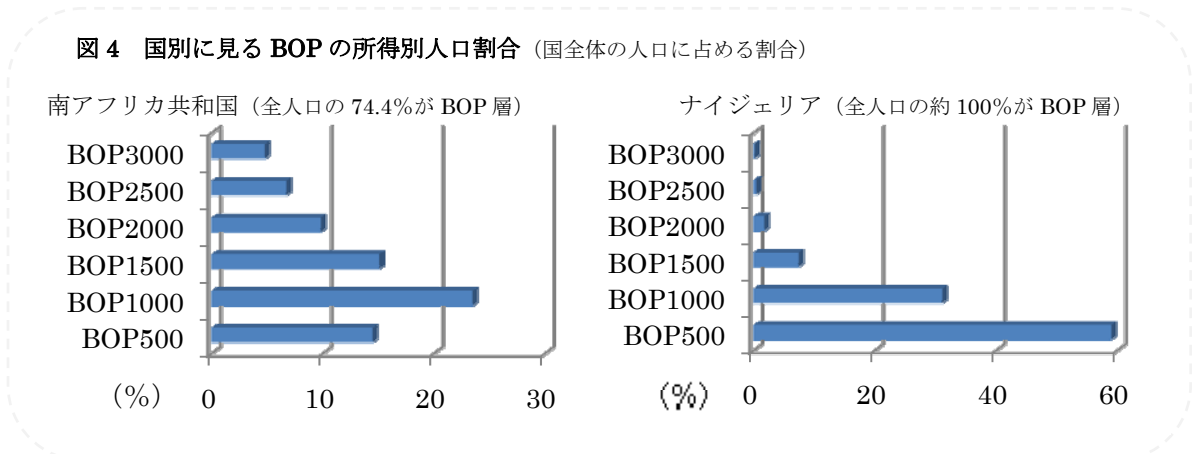




- ・上記四つのグラフを比較すると、それぞれ形が異なっているのがわかる。東欧・ラテンアメリカでは比較的所得の高い層で市場が大きい、アジア・アフリカはその逆である
- ・アジアとアフリカの違いにも注目したい。一番所得の低い BOP500 の市場規模に大きな差がある。これはアフリカにおいて低所得の人々が圧倒的に多いことを示している。

④ <国別の所得区分別の人口の違いを見る>

- ◆ さらにミクロな視点で見てもみましょう。同じ地域でも国別で比較すれば、所得区分別人口数を表したグラフの形が異なることがわかります。



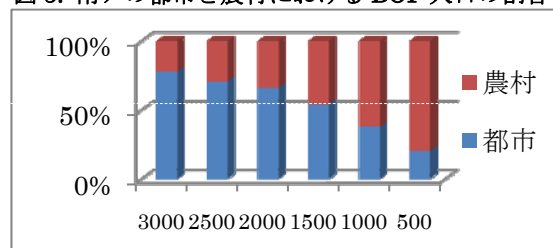
- ・例えば、同じアフリカでも、図4のように、南アフリカ共和国とナイジェリアでは所得別人口構成が異なる。

④ <都市と農村部における所得区分別人口の違い>

- ◆ さらに細かく見れば、都市と農村でも違いがあります。

- ・例えば、右の図は南アフリカにおける都市と農村を比較した BOP 層の所得区分を表している。
- ・都市部では比較的所得の高い層が多く、農村部では比較的所得の低い層が多い。

図5. 南アの都市と農村における BOP 人口の割合



【ハ. BOP層はどんな課題を抱えているのか】

一体彼らはどんな社会課題を抱えているのでしょうか？以下に記した文章と数字はもしかしたら、皆さんが目にしたことのあるものかもしれません。しかし今回は「BOP層」と日本の実態を比べることで、彼らの生活状況を想像しながらご覧ください。

◆ 保健医療分野

➤ 妊産婦死亡

- ・妊娠中及び出産時に、医療従事者へのアクセスができず、また適切な診断・治療を行う機材・薬品にも乏しいため、毎年50万人以上の女性が命を落としている。
- ・日本では年間約50人が亡くなっている。

➤ HIV／エイズ

- ・HIV 予防・治療サービスがないことによって、サハラ以南アフリカでの HIV 感染者は 2240 万人、全世界におけるエイズ死亡者の 72%は同地域から報告されている。
- ・日本での HIV 感染者は約 8500 人。

➤ 結核、マラリア

- ・結核により毎年約 170 万人（2006 年）が、マラリアにより約 88 万人が死亡している。結核は依然として感染者が多い病気であり、HIV／エイズ感染拡大とあいまって重複感染が増加。マラリアは、多くの熱帯地域において深刻な脅威であり、特にサブサハラ・アフリカにおいては乳幼児死亡率の大きな原因となっている。
- ・日本では毎年約 2.5 万人が結核に感染している。

◆ 水道分野

- ・WHO と UNICEF が作成した「Progress on Drinking-water and Sanitation: special focus on sanitation」（2008 年）の推計によると、上水道や井戸などの安全な水を利用できない人口は 2006 年に世界全体で約 8 億 8,400 万人いる。毎年約 180 万人の子供が下痢のために死亡し、毎年のべ 4 億 4,300 万日の子供の授業日が失われているとされる。
- ・日本での水道普及率は 97.4%で、きれいで安全な水が飲める。



◆ 運輸分野

- ・BOP層の多くは、交通・輸送手段を持たないこと、あるいは利用できる手段が高価なことによって求職活動や、市場へのアクセスが妨げられ、また保健医療サービスを受けたり、子供を学校へ通わせたりする上での障害となっている。

◆ 住宅分野

- ・住宅ローン制度がないために家を建てられない。また多くの国々では家や土地の所有権を法律上の権利として認められていないため、上・下水道、電気などの公共サービスを受ける上で障害となっている。このような法律の未整備は企業の進出も妨げている。



◆ エネルギー分野

- ・BOP 世帯の **36%**が電気へのアクセスができない。都市部より農村部の方で顕著に表れ、エネルギー・サービスの欠如は産業の発達を妨げ、雇用機会の減少を引き起こし、医療や教育を受ける機会を妨げることもある。

◆ 食糧分野

- ・途上国で体重が不足している子どもの数は、**1 億 4,000 万人**（2006 年）を超えている。さらに食料価格の高騰により状況はさらに悪化している。
- ・インフラが整っていない市場から離れた農村部では、輸送コストや中間業者の存在から商品の値段が都市よりも高くなり、貧困を助長している。

「貧困は自然現象ではありません。貧困は人間が作り出したもので、人間の行動によって克服し追放することができます。また、貧困の克服とは、慈善行為ではありません。それは正義の行為であり、基本的人権の擁護であり、人間として尊厳ある生活をする権利なのです。貧困が存在しつづける限り、自由はありえません。」 ネルソン・マンデラのスピーチより 2005 年 2 月 3 日、ロンドン、トラファルガー広場にて

【次回予告】

なぜ今「BOP ビジネス」なのか？詳細な市場分析とこれまでの議論から「BOP ビジネス」を考察する。

i その後、所得の差が優劣を示唆することのないよう「bottom」から「base」へと変更。

ii 『ネクスト・マーケット』英治出版 2005 年 スカイライト コンサルティング訳

iii Hammond, A. L., William J. Kramer, Robert S. Katz, Julia T. Tran, and Courtland Walker (2007), *The Next 4 Billion: WRI & IFC*

iv 多くのアフリカ諸国の家計調査データは整備されていないため、それらの国を含めると、アフリカの BOP 人口（および市場規模）は、報告されている数値の 2 倍程度になると推測される。

参考資料

- ・『ネクスト・マーケット』英治出版 2005 著者 C・K・プラハラード
スカイライト コンサルティング訳
- ・『未来をつくる資本主義』英治出版 2008 著者スチュアート・L・ハート 訳石原薫
- ・『The Strategies for the bottom of the pyramid』1998 C・K・プラハラード スチュアート・L・ハート著
<http://www.nd.edu/~kmatta/mgt648/strategies.pdf>
- ・外務省 日本の ODA の重点課題
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/bunya/index.html>
- ・ミレニアム開発目標報告 2008
http://www.unic.or.jp/mdg/report_2008.html
- ・厚生労働省 『人口動態統計』
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei08/index.html>
- ・AIDS/STI-related database Japan
<http://www.aidssti.com/index.html>
- ・(財) 結核予防会結核研究所
<http://www.jata.or.jp/>
- ・(社) 日本水道協会
<http://www.jwwa.or.jp/shiryuu/water/water.html>
- ・『次なる 40 億人』 Allen L. Hammond, William J. Kramer, Robert S. Katz, Julia T. Tran, Courtland Walker 世界資源研究所 国際金融公社
<http://www.wri.org/publication/the-next-4-billion>
※本レポートのグラフ・表・図は『次なる 40 億人』を参考に作成。
- ・オックスファム・ジャパン
<http://oxfam.jp/poverty/index.html>

(2010 年 2 月 1 日発行)

本レポートへのお問い合わせ

株式会社 Granma 山本尚毅

〒153-0061 東京都目黒区中目黒 1-1-3-207

TEL:03-3793-7210 Fax:03-3793-7210

Email : info@granma-port.jp